

令和 4 年 8 月 30 日現在

機関番号：13103

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K04849

研究課題名(和文) 中学校時代の職場体験やキャリア教育が成人期の進路選択や職業生活等に与える影響

研究課題名(英文) Effects of work experience programs in junior high school on career decisions and working life

研究代表者

山田 智之 (YAMADA, TOMOYUKI)

上越教育大学・大学院学校教育研究科・教授

研究者番号：00758584

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：中学校における職場体験が、大学生や職業人となった時の進路選択や職業生活、職業観等、成人期のキャリアに影響をあたえることが明らかになった。また、多くの学校が職場体験を肯定的に捉えていることが明らかとなった。また、事業所では、業務に与える影響を懸念する傾向はあるものの、職場体験を社会貢献やCSR(Corporate Social Responsibility)につながる活動としてのみならず、企業活動の一環としてとらえる傾向も認められた。このことから、学校は職場体験の実施にあたり、生徒指導上の留意事項を含めて、各事業所と十分に打ち合わせを行い、情報共有、共通理解を図ることが重要であると考えられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

中学校における職場体験が、大学生や職業人となった時の進路選択や職業生活、職業観等、成人期のキャリアに影響をあたえることが明らかになったことは本研究の最も大きな成果である。また、職場体験やキャリア教育の捉え方や具体的な取り組みについて、教員や事業所の方に調査を行い、多角的に現状を把握できたことは、これからの職場体験やキャリア教育を展開する上で多くの示唆を得ることができた。しかしながら、研究期間中の2020年のCovid-19の感染拡大を期に、学校現場ではオンラインで行う職場体験など新たなスタイルが試みられるようになった。今後は、新たな職場体験のスタイルを含めて、研究を深める必要があると考えられる。

研究成果の概要(英文)：The present study indicated that junior high school work experience programs affect course selection after college graduation, working life, and adult ideas about occupations. Many schools perceive work experiences positively. Businesses are concerned about the effect of work experience programs on their business undertakings; however, they also perceive such programs as a part of their business activities and as a social contribution, or Corporate Social Responsibility (CSR). Schools must have meetings with offices before implementing work experience programs and develop an understanding of such programs.

研究分野：キャリア教育

キーワード：職場体験 キャリア教育 大学生 社会人 教員 事業所

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

文部科学省(2004)によって小学校・中学校・高等学校におけるそれぞれの発達段階に応じたキャリア教育の必要性が示された。その中でも中学校段階のキャリア教育は、小学校段階の基盤形成期と高等学校段階の現実的選択・試行、社会的移行準備期の橋渡しをする非常に重要な段階と考えられる。そして、中学校段階のキャリア教育の中核をなす取り組みとして豊かな勤労観・職業観を中心に生きることに対する価値観を育むことを目的とした職場体験が、多くの中学校で行われるようになった。

全国の公立中学校における職場体験の実施状況は、調査を始めた平成16年度においては10,240校中9,183校(89.7%)であったが、その後増加傾向を示し、平成26年度には9,630校中9,478校(98.4%)を数えるようになった。一方、職場体験の実施日数は、平成16年度以降は5日間の職場体験を実施する中学校が増加し、平成19年度には2,050校(21.2%)に登った。しかしながら、その後は5日間の職場体験を実施する中学校は減少し、2~3日間の職場体験の実施率が増加傾向を示している。

このような職場体験の効果について、多くの研究は中学生を対象としたものであり、大学生や職業人に対して中学生当時の職場体験の効果を調査した研究は希少である。平成16~24年度頃の中学生は、本研究を実施予定の2017-2021年頃に18~20歳代の大学生や職業人となっていることから、大学生や職業人を対象に調査を行い、中学校時代の職場体験やキャリア教育の効果について検討するのに適切な時期であった。

### 2. 研究の目的

本研究は18歳以上の大学生や職業人を対象に調査を行い、中学校時代の職場体験が成人期の進路選択や職業生活などに与えた影響について明らかにすることを目的に行われた。さらに、現在、職場体験を実施・計画している中学校現場の教員(校長、副校長、進路指導担当教諭等)を対象に調査を行い、職場体験やキャリア教育の教育課程上の位置づけや関連する取り組みについての状況を明らかにした。また、本研究では職場体験において中学生を受け入れている事業所の方に調査を行い、職場体験の捉え方やCSR(企業の社会的責任)との関係、中学生の受け入れ状況、具体的な取り組み等を明らかにした。そして、得られた結果から、多角的に今後の中学校における職場体験やキャリア教育の在り方について検討を行った。

### 3. 研究の方法

本研究は、(1)中学校時代の職場体験の影響について、大学生を対象とした「中学校時代の職場体験が大学生の職業観に与える影響」、社会人を対象とした「中学生における職場体験が職業選択や職業生活に与える影響」、(2)イメージとキャリア、職業観について、大学生を対象とした「大学生の職業人イメージ及び自己未来イメージが、キャリア意思決定に与える影響」「オタクの職業観に関わる研究」、(3)中学校現場の職場体験の捉え方について、質問紙法による調査を行い、(4)事業所の職場体験の捉え方について、半構造化面接法による面接調査によって調査を行った。

### 4. 研究成果

#### (1) 中学校時代の職場体験の影響

##### 中学校時代の職場体験が大学生の職業観に与える影響

本研究は、中学校時代の職場体験が就職を間近に控えた大学生・大学院生の職業観にどのような影響を与えたかについて明らかにすることを目的に行われた。本研究の結果、中学校時代の職場体験が進路選択に影響を与えたと自認すること及び夢や希望への影響を与えたと自認することが、家族因子、自己実現因子といった職業の三要素の一つである個人性に関わる因子に影響を与え、社会への貢献因子、経営参画因子といった職業の三要素の一つである社会性に関わる因子に影響を与えていたことから、中学校での職場体験の意義は小さくないと考えられる。

## 中学生における職場体験が職業選択や職業生活に与える影響

本研究は、中学校時代の職場体験が成人期の「職業選択」や「職業生活」に与えた影響について検討したものである。本研究の結果、職場体験の体験日数（1～2日間、3～4日間、5日間以上）が長いほど職業選択や職業生活に影響を与えたと自認する傾向があることが確認された（図1）。また、地元での生活や仕事への満足感が高いほど成人職業キャリア成熟にプラスの影響を与え、理想の自分イメージにも影響を与えることが明らかになった。以上のことから、中学時代の職場体験がその後のキャリアに一定の影響を与えることが明らかになり、キャリア教育を進める上で職場体験が重要であることが示唆された。

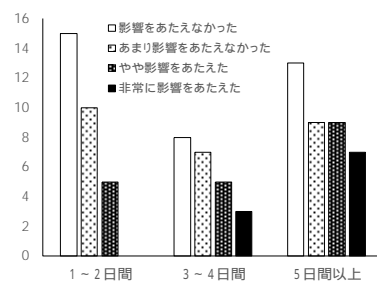


図1 職場体験日数ごとの職業選択への影響

### (2) イメージとキャリア、職業観

#### 大学生の職業人イメージ及び自己未来イメージがキャリア意思決定に与える影響

本研究は、日本の大学生の職業人イメージや自己未来イメージがキャリア意思決定に与える影響について検討したものである。本研究の結果、ポジティブな職業人イメージ（理想的職業人イメージ・当為的職業人イメージ）は、キャリア意思決定（決定扶南・不決断・モラトリアム）を低下させ、ネガティブな自己未来イメージ（現実的未来自己イメージ）はキャリア意思決定（決定不安・不決断・モラトリアム・逃避・障害不安）を促進させる傾向が明らかになった。以上のことから、適切なキャリア意思決定を行うためには、職業人イメージや自己未来イメージを適切に実感させることができるようなキャリア教育の取り組みが重要であることが示唆された。

#### オタクの職業観に関わる研究

本研究は、オタク自認の可否が職業観に与える影響を検討したものである。本研究の結果、職業観尺度の下位尺度である社会への貢献因子には、オタク自認者が負の影響を与えていた。また、職業観尺度の下位尺度である自己実現因子には、オタク弱自認者、オタク自認者が負の影響を与えていた。このことからオタクを自認する者は、職業によって社会への貢献や自己実現を図ろうとはしない傾向があると考えられる。また、オタク自認者の差別意識が職業観に及ぼす影響を検討した結果、差別意識尺度の下位尺度である差別理解因子が、職業観尺度の下位尺度である経営参画因子、自己実現因子に正の影響を与えており、オタクを自認する者は、差別に対する理解が高まることによって、経営参画や自己実現を図るようになる傾向があると考えられる。

### (3) 中学校現場の職場体験の捉え方

本研究は、中学校現場が職場体験の現状や課題をどのように捉えているのかを明らかにすることを目的に行われた。本研究の結果、学校現場の教員は、負担も感じているが教育的意義や効果を実感しており、大多数の学校が5日間の職場体験を肯定的に捉えていることが明らかとなった。この背景には、様々な支援体制の充実や、職場体験の実施に対して肯定的に捉えている地域の存在があると考えられる。また、職場体験を夏休み期間に実施することで授業時数を確保するといった負担軽減の取り組みを行うとともに、自校の特性に合わせて他学年や学校全体、地域、保護者、事業所などと連携しながら、指導内容の充実を図っていることが明らかとなった。

### (4) 事業所の職場体験の捉え方

本研究は、職場体験の受け入れ事業所が職場体験の現状や課題をどのように捉えているのかを明らかにすることを目的に行われた。本研究の結果、業務に与える影響を懸念する傾向はあるものの、事業所によっては、職場体験を社会貢献やCSR（Corporate Social Responsibility）につながる活動としてのみならず、企業活動の一環としてとらえる傾向も認められた。このことから、学校は職場体験の実施にあたり、生徒指導上の留意事項を含めて、各事業所と十分に打ち合わせを行い、情報共有、共通理解を図ることが重要であると考えられる。

### (5) 総合的考察

本研究において、中学校における職場体験が、大学生や職業人の進路選択や職業生活、職業観等、成人期のキャリアに影響をあたえることを明らかにできたことは、本研究の成果と考えられる。また、中学校の教員や事業所の方に調査を行い、職場体験やキャリア教育の捉え方や具体的な取り組み等について多角的に現状を把握できたことは、今後、職場体験やキャリア教育を展開する上で多くの示唆を得ることができた。

文部科学省（2005）は、職場体験の期間について「緊張の1日目、仕事を覚える2日目、慣れる3日目、考える4日目、感動の5日目」「1日より3日、3日より5日」と、同じ活動であったとしてもその質が大きく変わってくることを示し、5日間の職場体験を推奨している。しかしながら、2020年のCovid-19の感染拡大を期に、体験そのものを控えなければならないことを余儀なくされ、学校現場ではオンラインで行う職場体験など新たなスタイルが試みられるようになった。今後は、新たな職場体験のスタイルを含めて、その効果について研究を深める必要がある

と考える。

引用文献

文部科学省 (2004). キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書『児童生徒一人一人の勤労観・職業観を育てるために』

文部科学省 (2005). 中学校職場体験ガイド 文部科学省

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 山田智之	4. 巻 40
2. 論文標題 共感がレジリエンスに与える影響 ~オタク自認者とオタク非自認者に着目して~	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 上越教育大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 145 - 154
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 山田智之	4. 巻 41
2. 論文標題 「特別活動」と「総合的な学習の時間」の認識に関する研究 ~現職教員と教員志望の大学生・大学院生に着目して~	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 上越教育大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 山田智之	4. 巻 39
2. 論文標題 オタクの職業観に関わる研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 上越教育大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 407-416
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 山田智之・田邊道行・佐藤賢治	4. 巻 37
2. 論文標題 中学生における職場体験が職業選択や職業生活に与える影響 ~新潟県上越市における社会人への調査から~	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 上越教育大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 83-94
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 山田智之
2. 発表標題 共感がレジリエンスに与える影響 ~ オタク自認者とオタク非自認者に着目して ~
3. 学会等名 日本キャリア教育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山田智之
2. 発表標題 オタクの職業観に関わる研究
3. 学会等名 日本心理学会第83回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山田智之
2. 発表標題 現職教員と教員志望学生の教職観の相違
3. 学会等名 日本教育心理学会第61回総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山田智之
2. 発表標題 研究における「理論と実践」について考えるライブ ~ 生徒の変容, 保護者・教師の願いをどのように測定するか? ~ 研究的な視点と実践的な視点の温度差
3. 学会等名 日本キャリア教育学会第41回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山田智之
2. 発表標題 大学生の職業観が地元志向に与える影響
3. 学会等名 日本心理学会第82回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山田智之
2. 発表標題 中学校での職場体験が大学生の職業観に与える影響
3. 学会等名 日本キャリア教育学会第40回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山田智之・箱田優也・濱谷健太・高橋尚子・岩城淑樹
2. 発表標題 上越市における5日間の中学校職場体験に関する研究 - STAMP (S: 職場, T: 体験, A: 新しい, M: 未来へ, P: プロジェクト) の試み -
3. 学会等名 日本キャリア教育学会第39回研究大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------